

## 高齢帰国者之家

### 《介绍面向高龄归国者的日语教室①》

“迄今为止，说到娱乐，也就是看看电视了。可是现在来到这儿，和大家说话聊天儿，是最高兴的！”（归国者第一代/女 64岁）

中国帰国者支援・交流中心在全国各志愿者团体的协助下，于平成16年度开设了一个高龄者之家——“面向高龄归国者的日语教室”。此日语教室旨在让高龄者能够一边欢聚一堂，一边生机勃勃地开展各项活动。现在，这样的教室，已在全国15个都道府县（北海道、青森、秋田、岩手、山形、福島、埼玉、東京、山梨、長野、愛知、京都、香川、熊本、長崎）的18处开设，而且这一数字，在平成19年度还有望继续增加。

实施内容是由负责运营的志愿者团体之工作人员，根据高龄归国者的需求，并结合各地区实际情况制定出来的。从整体上看，每一个团体制定的内容，除简单的日语学习以外，还包含有文化活动、交流活动、保健运动、外出参观等项目。另外，既没有家庭作业也没有什么考试，因此大家可以轻松地愉快地进行学习。此期，我们打算给大家介绍一下山形县开设的日语教室。

#### ◇山形县中国帰国者奉仕会“每天愉快生活讲座”（特意用汉语命名的讲座）

此讲座自平成16年9月起在天童市与中山町两处开设。现在，每月分别办了两次讲习，登记在册人数共计22名。由于参加这一讲座的人，都比较喜欢交流及野外活动，因此制定了一个全年活动计划，并把日语学习编入其间。让我们来看一其中的部分内容：春季赏花，夏季则参加当地夏收节活动，秋季和当地居民一起煮芋艿，冬季举办国际交流圣诞联欢。这些活动不仅使归国者彼此间得以交流，更使他们有机会与各个国家的人结识，并且同当地居民进行了友好交流。而日语学习则从高龄归国者的日常生活出发，每一次都少许地、缓缓地把有关在医院

## 高齢帰国者の集いの場

### 《高齢帰国者向け日本語教室紹介①》

「これまで、楽しみといえばテレビを見るくらいだったけれど、今はここに来て皆さんとおしゃべりするのが一番楽しいです！」（帰国者1世/女性・64歳）

中国帰国者支援・交流センターは平成16年度から全国各地のボランティア団体のご協力を得て高齢者が集い交流しながらいきいきと活動できる場「高齢帰国者向け日本語教室」を設けています。現在その数は全国15都道府県（北海道、青森、秋田、岩手、山形、福島、埼玉、東京、山梨、長野、愛知、京都、香川、熊本、長崎）の18カ所で、平成19年度は更に増える見込みです。

実施内容は、運営するボランティア団体の方々が高齢帰国者の皆さんのニーズや地域の実状にも配慮しながら決めます。全体的にどの団体も簡単な日本語の他に文化活動、交流活動、健康作り活動、施設見学なども取り入れています。また、宿題や難しいテストもありませんし、楽しく学ぶことができます。今号では山形県内で実施されている以下の教室をご紹介します。

#### ◇山形県中国帰国者奉仕会「每天愉快生活讲座」（メイティヌ ヲクアイ シヨソク ジヤンス オ/中国語読み）

この講座は平成16年9月から天童市と中山町で開かれました。現在、それぞれ月2回ずつ開かれて、登録者は合計22名です。皆さん交流活動や野外活動がお好きということで、年間を通じて活動計画を立てて、その中

陈述病症、紧急联络以及问路等内容，安排到学习内容当中。学员中有的人视力不好，因此，还将学习资料进行放大复制后，发给大家使用。



4 月赏花会(每次见面都要相互关心彼此的健康、问候各自的近况)

4 月の花見会(会う度に互いの健康を気遣い近況を話します)



在公民馆开展“包饺子交流会”

公民館での「餃子作り交流会」

参加日语教室的高龄归国者告诉我们，“大家可以在开心的畅谈中学习日常生活所需要的生词”。因此，这个教室可以说是一个高龄者之家。我们希望今后能有更多的高龄归国者来到这里，更多地与当地居民进行交流，真正让自己“每天愉快”，健康生活。

往后我们将继续为您介绍各地日语教室的情况。(M)

※“每天愉快生活讲座”联络方式

电话：023-623-7052

时间：周三～周日 上午10点～下午4点

负责人：滝田 博



在晴朗的天空下开展活动，令人的身心都变得年轻。新鲜空气中活动的话，身心也会年轻。

言葉の学習も織り交ぜています。その一部をご紹介しますと、春は花見、夏は地元のお祭りに参加、秋は地域住民との芋煮会、冬は国際交流クリスマス会でいろいろな国の方々と出会うというように帰国者間の交流のみならず、地域の皆さんとも交流をしています。日本語の学習は高齢帰国者の方々の日常生活を考えて、病院で症状を伝える、緊急連絡する、道を尋ねるなどを1回少量ずつ、ゆっくりとしたペースで学べるように配慮しています。視力の弱い方もいますので、資料を配布する場合は拡大コピーしたものを使っています。



学習场景 教室風景

参加される高齢帰国者の皆さんからは「みんな楽しく話し合いながら、日常生活に必要な単語も得られる」などの声があり、今は心のよりどころになっているといえるでしょう。今後一人でも多くの高齢帰国者の方々が継続して集い、地域の人との付き合いも広めつつ、教室名のとおり「毎日愉快」に健康でいられることを願います。

次号からも引き続き各地の教室の様子をご紹介します。(M)

※「每天愉快生活讲座」に関する問合せ先

電話：023-623-7052

時間：水～日曜日の午前10時～午後4時

担当：滝田 博

# 《征稿》一支活跃在归国者中间的大海グループ

近几年来，在中国归国者中间活跃着一支深受人们喜爱，也颇具人们关注的民间团体—大海グループ。

中国归国者从中国回到日本以后，由于岁月的流逝，年龄偏大，加之语言障碍，与人沟通交流十分不便，只能是守在家中，寂寞难耐。形成了一种兴高采烈回国，无奈承受寂寞的尴尬局面。面对这种状况，有些人就耐不住了，企盼着有人能出来组织一个以归国者为主，能够经常聚聚，说说话唠唠嗑，高兴了还可以唱一唱，跳一跳的民间组织。就这样，五年前，大海グループ就这样在“虹の会”的支助下诞生了。



赏花会和交流会（2006年4月在新宿御苑）  
お花見と交流の会（2006年4月、新宿御苑）

大海グループ诞生初期，只是由几个人自发成立的，每周坚持一、二天的活动时间，无非由海阔天空地闲聊到逐渐改成学学歌曲、跳跳中国民族舞与小型文艺节目活动，只是自娱自乐，自舞自赏。随着人员的不断增加，由几个人发展到二十几个人。活动形式也由单一的中国歌舞拓展到日本歌舞、印度舞蹈、美国舞蹈等表演形式。与此同时，也由过去的自学自唱、自编自演，转化到走

# 《投稿》帰国者の間で活発に活動する大海（ターハイ）グループ

大海グループは、ここ数年来、中国帰国者の間で積極的に活動し、人々から大変人気を得て、注目されている民間団体です。

中国帰国者は中国から日本に戻ってから歳月の流れ去る中で年齢も上がり、その上言葉の壁で人との交流が十分できず家の中に引きこもってばかりになり、寂しくて耐えきれない生活をしています。大変喜んで帰国したものの、ただ寂しさを受け入れるしかない状況に置かれています。このような状況に耐えきれない人々の中では帰国者主体で頻りに集まっておしゃべりや世間話をしたり、楽しく歌ったり踊ったりできる民間グループの結成が待ち望まれていました。このようにして、5年前に大海グループが「虹の会」の援助のもと誕生しました。

大海グループの誕生初期は、ただ自発的に数人で結成し、毎週1、2日の活動時間を取って、自由に制限を設けずに雑談していましたが、徐々に楽曲を学んで、中国民族舞踊を踊る小さな演芸活動に変わりました。自分たちで楽しむために踊ったりしていましたが、人数が増えるに連れて、数人規模から20数人の組織になりました。活動も中国歌舞一辺倒から、日本歌舞、インド舞踊、アメリカ舞踊等の演目を開拓するようになりました。と同時に、昔は自作自演で自分たちで楽しむためにやっていたことが、今では外に出て行って公演するようになりました。ここ数年来、大海グループは相次いで東京各地区、千葉、神奈川等の各種活動の場で、民間グループや自治会の文化祭や祭りに参加したり、養老院に行ったりして人々から熱烈な歓迎を受け

出去公演。近几年来，大海グループ已先后到东京各区、千叶和神奈川等地各种学会、民间组织和自治会的“文化祭”、“祭り”以及老人院去演出，受到人们的热列欢迎。演出场次达二十几场。演出的节目不仅有中日民族舞蹈、印度舞、夏威夷舞，也有中国腰鼓，民间大秧歌；有独舞也有群舞。日本民谣的独唱，十多余首的小合唱歌曲。演出服装光彩照人，有古典民族服饰，也有自做的草裙、道具。这些服饰和道具，均由个人出资制作。颇受国民和在日华人的赞赏。



大海グループの忘年会(2004年12月)  
大海グループの忘年会(2004年12月)

大海グループ使我们平均年龄 65 岁的老人焕发出青春的活力，让我们找到了自我，解除了寂寞。将来大海グループ壮大了，会为大家献出更多更美的舞蹈。

(東京都 後藤 絹子)

てきました。公演回数も 20 数回に達し、演目も 中 日民族舞蹈だけでなく、インド舞蹈、ハワイ舞蹈、中国腰太鼓舞蹈、民間の大秧歌(ターヤンゴオ/ヤンガー)、一人で踊るものもあればみんなで一緒に踊る踊りもあります。歌も日本民谣の独唱もあれば、10 数曲の小合唱団の歌曲もあります。きらびやかな衣装、古典民族衣装、フラダンス用のスカートや小道具、こういった衣装と道具もみんなで費用を出し合って製作しました。地域の皆さん、在日中国人の方々の評判は上々です。

大海グループは 私たち平均年齢 65 歳の老人に青春の活力を奮い起こさせ、自分を見つけさせ、寂しさを解消させてくれました。大海グループは 将来もっと大勢の方々に更に美しい踊りを披露することができるでしょう。(東京都 後藤 絹子)

